

Check

今月の栽培ポイント

8月

営農情報

詳しくはお近くの下記事業所までお問い合わせください。

東尾道営農センター ☎0848-56-1231

浦崎支店 ☎0848-73-3311

尾道北営農センター ☎0848-29-9611

御調支店 ☎0848-76-2242

向島営農センター ☎0848-44-2106

甲山支店 ☎0847-25-5035

因島営農センター ☎0845-25-6161

世羅西支店 ☎0847-37-7100

世羅営農センター ☎0847-25-5029

東生口出張所 ☎0845-28-0211

水稲

9月に入ると多くの圃場で稲刈り作業がスタートします。刈取り適期を見定め、品質の良いお米を収穫しましょう。

また、早生以降の品種では、病害虫の被害にも注意してください。

【ウンカ類】

トビイロウンカは、梅雨時期に中国大陸から下層ジェット気流に乗り日本に飛来し、1〜3世代発生します。

水稻の茎から養分を吸汁し、稲の生育を弱らせ枯らしてしまいます。大発生す

ると広い面積の稲を枯らし、坪枯れ被害を発生させる重要害虫です。



▲トビイロウンカ



▲坪枯れ

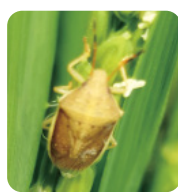
【カメムシ類】

近年、全国的に「イネカメムシ」の被害が拡大しています。「イネカメムシ」は穂軸を吸汁し、不稔穂を発生させ、大きく収量を減少させます。

また、管内の南部地域において、「イネクロカメムシ」の発生も確認されています。「イネクロカメムシ」は茎葉を吸汁するため、激しい加害を受けると白穂等の発生につながります。

発生が確認された圃場では、出穂前後の防除にスタークルを含む薬剤で防除を行ってください。

「イネカメムシ」に関しては、管内での徹底した防除により発生密度の減少がみられますが、まだまだ全国的に見ても発生率が高い状況です。引き続き、定期防除・追加防除を実施してください。



▲イネカメムシ



▲イネクロカメムシ

【早期落水の防止】

落水時期が早すぎると、玄米肥大生長が抑えられ、収量や食味・品質の低下を招きます。落水時期の基準として（土壌条件・気象条件を考慮）、湿田では出穂後25〜30日、乾田では出穂後35日頃を目安にしましょう。

【刈取り作業】

刈取り期には、コンバインやバインダーによる事故が報告されています。機械を操作する方もサポートする方も安全確認を怠ることなく、事故防止を徹底しましょう。

【刈取りの目安】

適期にイネを刈取ることは品質向上の面で非常に重要です。

適期より早いと青米や未熟粒の増加に繋がります。

逆に、遅いと茶米や胴割粒の発生に繋がります。

成熟期は、多くの品種で出穂してから40日前後です。しかし、出穂期から成熟期までの期間は出穂後の天候がよければ早まり、気温が低ければ長引きます。品種によって幅はありますが、積算温度の目安として、950〜1,100℃前後とされています。

実際の圃場をよく観察し、緑色の籾の割合（青味率5%）で判断していきましょう。

【乾燥・調整】

品質に直接影響しますので慎重に行ってください。刈取り直後の籾は温度が高く水分も多いので、できるだけ早く乾燥機に入れ、まずは通風乾燥で余熱や余分な水分を除去してやりましょう。

通風乾燥の後に火力乾燥に移ります。が、急激な乾燥や過乾燥は、胴割米の発生に直結しやすいので慎重に行ってください。火力乾燥後はもう一度通風乾燥で余熱をとりましょう。

また、仕上がり後は水分計で仕上がり水分の確認をしましょう。

柑橘

サビダニは8月の防除が一番重要となります。暑い時期ですが防除を徹底しましょう。

【中晩柑類の仕上げ摘果】

大玉果実生産と成品率向上を目的に仕

中晩柑
収穫時L以上になる基準
(しらぬひは2L)

単位: mm

時期	八朔	しらぬひ	はるみ	はるか
8月20日	60	57	45	46
8月30日	65	61	49	51

みかん
収穫時S以上になる基準

単位: mm

時期	早生	いしじ
8月20日	38	39
8月30日	42	42

上げ摘果を徹底しましょう。時期別肥大基準を参考に小玉果・傷果を摘果します。

【中晩柑類の灌水】

過乾燥状態での灌水は裂果が多発します。灌水は定期的に実施しましょう。

しらぬひやはるみは、8月の灌水が酸の低い果実を作るために重要です。中晩柑類は、降雨がない場合、ホースで1樹あたり40ℓ以上灌水しましょう。使用できる水が少ない場合は、かん注機を使用し1樹あたり20ℓ程度灌水しましょう。毎年しらぬひの糖度が低い園地は、9月はやや乾燥ぎみに管理しましょう。

【みかんの摘果】

豊作の樹では、小玉果防止のため早めに摘果しましょう。

連年結果樹では、果面がツルツとし光沢がでてくる時期(8月下旬から9月)から摘果すると、糖度の高い果実生産が出来ます。果実肥大と果面を見ながら摘果

連年結果樹では果実の肌を見ながら摘果時期を決定すると糖度の高いミカンを生産することが出来ます。



▲果実の肌が荒く摘果作業はまだ早い



▲果実が光沢をおびツルツとしてきたら摘果開始のサイン

時期を調整してください。

不作樹は次年度の着果過多を防ぐため、収穫前の樹上選果まで摘果は見合わせましょう。

隔年結果是正の樹冠上部3分の1摘果を実施した園では、果実肥大を見ながら摘果時期を調整してください。

【みかんの品質向上】

みかんは、7月中旬～8月末までは乾燥ぎみに管理し、糖度の上昇を図ります。灌水は果実が早朝軟化していたら実施する程度にしましょう。また、8月下旬に雨が多い場合は次の対策を実施しましょう。

◆フィガロン散布

雨が多く糖度が上がりにくい場合は、フィガロン乳剤を散布します。散布後約20日間は根からの水分吸収を抑制します。(樹勢が弱るので年間2回までの使用に留めてください)

◆タイベックマルチの被覆

全面被覆することにより効果が高まります。着色促進効果を狙う場合は、収穫30日前までには被覆しましょう。

◆カルビタPの散布

8～10月にかけて3回以上散布することにより浮皮軽減・果皮強化を図ることが出来ます。

【病害虫防除】

◆黒点病

散布間隔は累積降雨250mmもしくは

散布後30日です。遅れないように散布しましょう。

◆ミカンハダニ・サビダニ

8月、9月の防除

が未実施の場合、甚大な被害が与える予想されます。ダニエモンフロアブルまたはダニゲッターフロ



▲サビダニ

アブルを丁寧に散布しましょう。

また、秋に気温が高く雨が少ないと9～10月にかけてサビダニが発生することがあります。9月下旬頃にイオウフロアブルを散布しましょう。

イオウフロアブルは、高温時に散布すると薬害が発生する恐れがあるので注意しましょう。



▲イオウフロアブルは高温時散布で薬害が発生するので注意する28℃以下で散布する

◆カイガラシ類

地球温暖化に伴い、カイガラシが年々増加傾向にあります。防除の際は、薬剤が幹にもかかるように散布しましょう。

◆極早生の腐敗防止剤散布とアザミウマ防除

収穫前には必ず腐敗防止剤を散布しましょう。また、近年アザミウマ被害が多

くなっていますので、園地をよく観察し(果実と果実がくっついた場所)発生が見られる場合は、早急に防除しましょう。

◆かいよう病

台風襲来時は、事前に薬剤を散布しましょう。併せて夏秋梢を処理し、かいよう病の拡大を防ぎましょう(再発の場合は、再度処理しましょう)。特にレモンは必ず実施してください。

◆日焼け防止対策

日焼け果が多発する園地では、発生前にホワイトコート50倍を散布しましょう。



▲ホワイトコート散布で白くなり日焼けを防ぐ

【中晩柑類の初秋肥施用】

果実肥大促進のため、中晩柑類は9月上旬に初秋肥を施用します。基準量(元気200の場合10アールで6袋)を守って施用しましょう。また、中晩柑一発358

を使用する場合は施肥量・施肥時期・平坦地での使用、河川への流出防止を厳守しましょう。また、有機が含まれていない肥料なので堆肥などは積極的に投入しましょう。

商品名	9月上旬
広島フルーツ元気866	110kg/10アール
BBフルーツ元気200	120kg/10アール
中晩柑一発358	120kg/10アール

【台風対策】

苗木や高接の支柱への結束を実施するとともに次の対策を実施しましょう。

◆かいよう病防除

レモン、ネーブル、はるみなどかいよう病に罹病しやすい品種は、台風襲来前にコサイド3000とクレフノンを混用散布もしくはクプロシールドを散布しましょう。台風襲来前に散布出来なかった場合は、通過後散布しましょう。

◆海水浸水対策

海水が浸水した場合、石灰質資材を混和し多量の水を投入して除塩しましょう。石灰質資材は硫酸カルシウムの効果が高いです。

◆塩が葉に付着した場合

6時間以内に10アール当たり2トン以上の水で洗い流してください。

落葉果樹

8月は高温乾燥で推移する傾向にあります。暑い中での農作業になるので、体調管理には十分注意し、こまめな水分補給を行い熱中症にならないように注意しましょう。

【収穫】

収穫は果実温度の低い早朝に行い、適熟果の収穫を心がけ、商品として責任の

持てる果実を出荷しましょう。出荷始め

には栽培管理表を提出し、確認を受けてから出荷を始めてください。品質的にばらつきがなく、味や着色が良い高品質果実を生産し、消費者から信頼される産地を目指しましょう。特に、降雨が無く乾燥する場合には、乾燥による果粒軟化や取り遅れによる過熟果に注意しましょう。

【病害虫防除】

高温で多湿な条件が続くと病害虫が発生しやすくなつてきますので、防除は早めにに行ってください。

ぶどう

【収穫が終了した園】

貯蔵養分を蓄えるために、葉を健全に保ちましょう。

収穫終了後すぐに、速効性の肥料を施用し、かん水を行って、樹勢の回復を図ってください。(S604を15kg/10アール)

灌水は、収穫終了後も定期的に行ってください。

【これから収穫を行なう園】

裂果対策は万全ですか？排水溝の整備や樹冠下のマルチング等を行ってください。着色期から収穫期にかけても、水分は必要ですので、定期的に灌水を行ってください。

出荷始めには、担当者から熟度、酸抜

け、食味などについて、アドバイスを受けてください。

収穫の終わったハウスは、ダニやカイガラムシを発生させないためにも防除を行ってください。

いちじく

収穫最盛期に入ります。果実温度の低い早朝に収穫しましょう。収穫する際は、果実を傷つけないように丁寧に採収しましょう。

◆病害虫防除

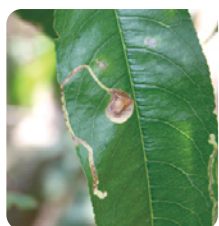
園内に腐敗果を放置していると、病害虫の感染源となります。こまめに園内を見回り、腐敗果は必ず園外に持ち出し処分しましょう。

◆灌水

先月同様に、晴天が続く乾燥する場合は、適宜灌水を行いましょう。

もも

収穫終了後、すぐにハモグリガ、ダニ類の防除を行ってください。



▲ハモグリガ

◆注意する病害虫

シンクイムシ類、カイガラムシ類、ハモグリガ、さび病

【秋季剪定】

秋季剪定は、2次伸長の発生が少なくなる9月中旬が適期です。葉が繁つている時期だと樹冠内部の日照を確認しやすいので、枝の整理を行いましょう。

日当たりが悪い所は枝が枯れ込み、結果枝が無くなってしまいます。

樹全体の枝へまんべんなく日光が当たるように秋季剪定を行いましょう。

乾燥が続く場合は灌水を行いましょう。

なし

8月上旬から9月にかけて出荷します。果皮色だけでなく地色も確認して収穫を行ってください。

【灌水】

なしの後期果実肥大は灌水次第です。収穫前の果実肥大期には、乾燥しないように、しっかりと灌水を行ってください。

【病害虫防除】

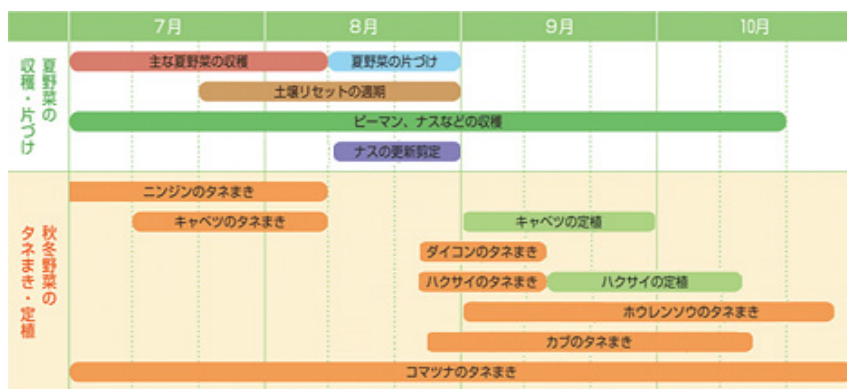
黒星病に注意し防除を行ってください。晴天が続くようであれば、ダニやアブラムシの発生に注意が必要です。収穫前に黒星病とハダニ類を発生させないために、丁寧にたつぷりと防除を行ってください。

家庭菜園

夏も盛りとなり、連日暑い日が続いているものと思います。日中の作業は控えるようにしましょう。

【夏野菜から秋冬野菜へ】

夏本番の8月ですが、夏野菜から秋冬野菜への切り替え作業を行う時期となります。左の暦を参考に作付け計画を立て、



作業が遅れないように注意しましょう。

◆夏野菜の管理

トマト、キュウリ、カボチャなどは、お盆を目安に片づけを行います。茎を根元で切り、一週間ほど夏の暑さに当ててやると乾燥して体積も減り、扱いやすくなります。畑の外で処理しましょう。中途半端な状態で畑に残すと、虫や病気の温床になってしまうので注意しましょう。ナスは、盆頃を目安に1/2から1/3程度に枝を切り戻し、株の周囲30cmにスコップを入れてやります。その後、灌水と追肥を行うこととおいしい秋ナスの準備が整います。

◆土づくり

雑草や前作の根などを取り除いた畑に、1㎡当たり堆肥2kg、石灰資材を100〜200gを基準に、植付け一カ月〜二週間前までに施します。植付け一週間前に基肥を1㎡当たり150g基準で施します。

ダイコンやニンジンなどの根菜類を植える場合は、より深く耕して根が伸びやすい環境を整えてやりましょう。

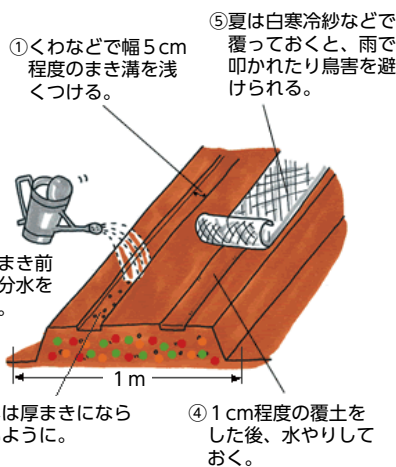
◆種まき・育苗

春植え野菜と違い秋冬野菜は定植後、気温が下がっていきます。種をまくのが一日遅れたら収穫が一週間遅れるといわれるほど初期生育の差が大きく出ます。作物ごとの適期に植え付けられるよう、

計画を立てるのが大切です。

◆ポイント

畑に直接種をまく際は、なるべく平らに仕立て生育が揃うようにします。また、発芽までは土壌の表面が乾かないようにしましょう。

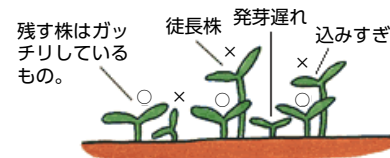


※まき溝は凹凸のないようにつける。
・凹凸がひどいとタネが均一にまけない。
・覆土が均一にしにくい。



ニンジンやレタスは、種に光が当たらないと発芽しないという性質があります。覆土は薄くするようにしましょう。

子葉展開時、込みすぎた所や発芽遅れ、徒長したものを間引く。



生育初期にタ立などに遭うと種が飛び散る、芽が枯れるといった被害が出ます。もみ殻や寒冷紗のベタがけで雨から守りましょう。

また、盆明けから秋にかけては、害虫の多い時期でもあります。何もしなければ必ず被害を受けてしまいます。寒冷紗などでトンネルを仕立て、その中で育てるのがおすすめです。生長を見越し余裕を持って仕立てると、裾が捲れないようにするのがポイントです。

◆秋ジャガイモの植付け

9月上旬に種イモの植付けを行います。種イモを切って植える場合、腐敗を防ぐために風の通る場所で切り口を乾燥させてから植え付けましょう。

そうか病の被害を防ぐために、ジャガイモを植える畑には石灰を入れないよう注意しましょう。